

第3回 令和6年度使用教科用図書加古川採択地区選定委員会 議事録

1 開会

2 会長あいさつ

3 協議

(1) 第2回加古川採択地区選定委員会協議に関する報告書の確認について

(第2回選定委員会での協議内容をまとめた選定報告書の内容確認について事務局から説明)

会 長：先ほどの説明に関しまして、何かございませんか。

(承認)

(2) 令和6年度使用小学校教科用図書の選定について

会 長：それでは、調査員会から報告いただいた順に協議していきたいと思います。

先日も申しましたが、選定委員会としてはそれぞれの立場からの意見をしっかりと伝えることが大切であると思いますので、本日も積極的に発言いただくとともに、「この教科書がふさわしい」という意思表示もよろしくお願いいたします。

①国語科教科用図書の選定について

会 長：まず、東京書籍についていかがでしょうか。

会 長：私が思いましたのは、話す・聞く・書く・読むの内容が、記号でとてもわかりやすく表示されていたということです。それから、「スイミー」や「大きなかぶ」が取り扱われていて、長らく親しまれてきた物語が入っていました。また、挿絵が見やすいものが使われていました。「ありがとうを伝えよう」など良かったですね。それから写真がふんだんに取り入れられているというところも、気に入ったところです。例えば、医療用ロボットについて身近な神戸市の事例が取り挙げられていました。また、カメがプラスチックの網にかかっていた写真は大変インパクトが強く、学習者に訴えかけるものが大きいと感じました。かばんの豊岡も採用されていましたし、本文はSDGsに繋がる内容で大変工夫されていたと思います。

会 長：他にいかがですか。

委 員：まず、複数の資料を関連付けながら読み進めていくという点で、説明文が充実しているなという印象を持ちました。「言葉の相談室」というページでは、間違ったモデルをもとにして、児童が文法事項の問題点を見出せる作りになっており工夫されていると感じます。また、兵庫県や防災教育に関する内容が非常に充実していると感じました。写真の話題も出ましたが、

デジタルコンテンツについても充実しているという印象を受けました。私としては説明文が充実しているなど感じています。

委員：最近の課題というか、多様な課題についてのテーマが多かったです。1年生の「もじをかこう」では、実際に指で大きくなぞれるようになっていて、初めて文字にふれる1年生にとっては、空書きや鉛筆でなぞるといのも工夫されていると思いました。

会長：他にありますか。

会長：続いて、教育出版についていかがでしょうか。

委員：教育出版の特徴としては、話す・聞く活動から書く活動につなげるというような構成が意識されていると感じました。また、情報収集や活用の仕方が具体的に示されていて、国語での学びを他の教科でも生かせるようにという視点で工夫されていると感じました。古典の教材が充実しており、日本の伝統文化に触れるような機会を重視されているなどというふうに感じました。

委員：私は逆に、古典が難しいかなと思いました。これだけのページ数は多いのかなと感じました。またフォントについて、UDフォントで書かれていますが、国語の教科書はやっぱり教科書フォントが良いのではないかと感じました。読みやすいと思うのですが、文字を習う最初の子達であると考えると、止めや払いが意識できる方が良いかなと思います。

会長：私は5年生の「ミニディベート」という教材について、子どもたちの考える力や伝える力を鍛えるために工夫された導入になっていると感じました。これまでもこういった内容はあったとは思いますが、新しい教科書を作る際にも入れてくるというのは、何か思いがあるのかなということを感じました。

会長：他はよろしいでしょうか。

会長：それでは最後に、光村図書についていかがでしょうか。

委員：光村図書は言葉のリズムや美しい情景描写というような、物語文において非常に充実しているなど感じました。あとは低・中・高と2年間を一つのまとまりとして、つけたい力を明確にしながら教材が配列されているとも感じました。1年生のスタートの教材として、言葉やお話の世界を楽しむことを非常に重要視した内容となっており、幼稚園や保育園での読み聞かせの延長線上に国語の勉強があるというような、そういう教材を配置していると感じました。私は光村図書が良いと思います。

委員：私も光村図書が良いと思っています。違う視点になりますが、私は物語文の「大きなかぶ」と「大造じいさんとガン」を見比べました。「大きなかぶ」では、訳した人が違うのか、物語に登場するキャラクターの順番が他の2社と異なっていると思います。この話は、いろんな人が助けに来て、最後

に小さなねずみさんが来て、「あ～抜けた～！」というところが面白いのだと思っています。他の2社は、ねずみさんが引っ張って、ねこさんが引っ張ってというように、小さい方から順番に出てくる形になっていて、ちょっと違うように感じます。その書きぶりによって、先生たちが授業で伝えたいことも変わってくると思います。また、「大造じいさんとガン」は、最初の前書きが光村図書以外の2社はないんです。前書きがないと昔の話をしているということが子どもにとって分かりにくいんですね。また、ガンの表記も光村図書はカタカナだけど、他の2社はひらがなになっています。調べてみると生物の名前なので、カタカナで表記する例が多いように感じました。細かいところかもしれませんが、他の委員が言われたように物語文に対する光村図書の姿勢が表れているなど感じました。一方で、伝統文化については古典がやや難しいかなとも思いましたが、やはり私は光村を推薦したいなと思います。

会 長：他にご意見ございませんか。

委 員：私も3つの中では光村図書かなと思いました。先ほども言われたように、「大きなかぶ」については前回から同じような違いがあったように記憶していますが、物語から子どもたちに考えさせる時には細かい部分も大事だと感じました。また、伝統文化については、どの教科書も子どもたちに伝えるべき内容を大事にして作られています。その中で、光村図書は四季の状態や俳句など分かりやすく書かれていると思います。難しいけれども言葉に慣れ親しむ、文化に触れるという意味では光村図書が良いと思います。

会 長：私も光村を推薦したいと思います。「スイミー」が2年生で扱われているのも1つの特徴だろうと思います。1年生で扱うより2年生で扱う方がより学年に合っているという判断だと思います。また、戦争教材として「ちいちゃんのかげおくり」や「一つの花」が低学年のうちから配置されており、難解な文章だとも思いますが、そのような作品に触れさせようという意図を感じます。6年生では、「海の命」や「やまなし」なども取り上げられているところも良いと思いました。他の委員と同様に物語が充実しているという印象を受けました。

会 長：国語に関して他にご意見ございませんか。
推薦の意思は他にございませんか。

②書写教科用図書の選定について

会 長：それでは続いて書写です。まず、東京書籍についていかがでしょうか。

委 員：いろいろな字の例が示されていて、子どもたちが視覚を通して書というものに親しめるような配慮がされていると思いました。また、内容にはリーフレット作り等、いろいろな活動が設定されていました。話し合い活動もふん

だんに盛り込まれているんですけども、実際、書写の時間にそこまでやっていくというのは、おそらく量としては多いのかなと思いました。ただ、毛筆、硬筆共にですけども、動画が非常にわかりやすく、指導をする側としては非常に使えるデジタルコンテンツが多いと感じました。

会長：私は、鉛筆や筆などの道具の作り方を示しているのはひとつの工夫かなと思いました。また、課題として3社ともに思ったのは、それぞれ実物大の手本がもっと欲しいなということです。それぞれ「正月」のところだけが実物大だったので、それはちょっと感じました。

会長：よろしいですか。

会長：続いて、教育出版についていかがでしょうか。

委員：教育出版も二次元コードのデジタルコンテンツが充実しているなど感じました。また、3年生からの毛筆においては、始筆や終筆であるとか形や字の流れなどが分かりやすく示されているなど感じました。

委員：教育出版は、単元の初めに「試し書き」というコーナーが設けられて、単元の終わりのところには「まとめ書き」というコーナーが設けられていて、最初の「試し書き」を子どもたちがどの程度できるのかは分からないですけど、おそらくねらいとしては自分の課題を見つけて、そこを意識して学習を重ねていって、自分のできるようになったことを自己評価できるようにということだと思います。また、発展教材として2年生で毛筆、6年生で中学校を意識した行書が取り上げられ、次の学年を意識した作りになってはいるんですが、意図はわかるけれども、実際の取り扱いという面に関しては、難しいのかなと思いました。

会長：この教育出版だけが、見開き2ページの使い方として、右側に手本を載せて左側に説明といふかね、筆の運び方を載せているのも特徴的だったかなと思います。

会長：最後に、光村図書についていかがでしょうか。

委員：単元のはじめに文字が比較して例示されていて、書写の中で整った文字を書くという目的に向かって、こういうところに気をつけて書くんだよという内容を、文字を比較させることで子どもたち自身が気づけるような、そういう学習のスタイルを意識していると思いました。また、SDGsに関する内容も、書写という限られた時間の中ではありますけれども、取り上げられていたと思います。あと、教育出版と同じではありますが、発展として毛筆を2年、行書を6年で取り上げており、次の学年への繋がりという意図はわかるんですけども、時間的な分量としては若干難しいかなと感じました。また、東京書籍と同じになりますけれども、動画が大変使いやすいもので、指導しやすいと思いました。国語と同じでなければならぬというわけではないですが、3社見比べて総合的に見ると、私は光村図書を

推薦したいと思います。

委員：今、パソコン等が普及して文字を書く機会が減り、日常的に文字を書く良さを感じにくくなっていると思いますが、生活の中に生かすというか、自分が書くことによって温かさを伝えるとか気持ちを伝えるとか、日常に生かせるような場面が意識して設定されていると感じました。あとはお手本が半紙と同じ比率というところも、自分で課題を見つけて進めるということももちろん大事だとは思いますが、少ない時間の中ではそういった工夫も良いと思いました。

会長：推薦の意思はいかがですか。迷っておられますか。

委員：はい、そうですね。悩みました。

委員：まだ迷ってはいますが、国語の教科書が光村図書なのであれば、連動するという意味で光村図書のメリットはあると思います。そういった意味で光村図書かなとは思いますが。難しいですが。

会長：私もデジタルコンテンツの多さにはすごく惹かれました。SDGsブックがありタブレットの活用等、子どもたちが使いこなせるかという課題はあると思いますが、良いと感じました。私も光村を推薦したいと思います。

会長：他に意見はございませんでしょうか。推薦の意思はございませんでしょうか。

③算数教科用図書の選定について

会長：それでは次に、算数に入りたいと思います。まず、東京書籍について、いかがでしょうか。

委員：算数では、1年生の中心を見させてもらいました。東京書籍は、1年生のスタートの時に、やはり就学前の幼稚園・保育園の生活、もしくは日常生活との繋がりが非常に意識されている作りになっていると感じました。全般的なんですけれども、式を書かせて終わるということではなくて、その式をそう書いてある理由を説明させる活動が非常に多く設定されています。問題解決型の構成で、加古川市が進めている協同的探究学習においても活用できるような教材が多く設定されているなど感じました。

委員：今実際、学生が授業してみたら、東京書籍がやりやすいというか、子どもに考えさせやすい、絵とか写真とかでの導入のところを考えさせやすいと思います。算数の研究をしていた時に、協同的探究学習をするための問題の数値設定としては、やりやすかったというのがあります。算数で一番大切なのは、どんな問題を子どもたちに最初に考えさせたら良いのかということで、その点では東京書籍の数値設定がやりやすく参考になりました。

会長：よろしいですか。続いて大日本図書について、いかがでしょうか。

委員：大日本図書についても1年生のスタート段階においては、入学前、日常生

活との繋がりには非常に意識されている作りになっているなと思いました。また、イラストの登場人物も多様性を意識し、例えば服装ですとか盲導犬が出てきたとか、多様性を考慮した作りになっているなど。ただ、1年生で数図ブロックをたくさん使うと思うんですけども、その数図ブロックのイラストが、あまりに実際使う数図ブロックと違うと言いますか、厚みが本当に無いという状況で描かれていて、実物に近くして欲しいなと思いました。あと、例えば導入にクイズ形式だったり、はてなを提示したりして、興味を惹くようにはしているんですけど、解決のところがスモールステップで提示されていて、いろんな考え方でアプローチをかけるという面では、ちょっとしにくいかもしれないなという感じはしました。

会長：私も大日本図書はちょっと扱いにくいなという第一印象で、ページをめくっていったときにそう感じました。写真と図の併用ページが大変多かったですので、それは子どもたちにとってどうかな、わかりやすいのかなという懸念を抱きました。それから文字がページの中に多いので、ちょっと読みにくいなという気もしました。それから折りこみのページがあるんですけども、それについても、見にくいなど。そういう、中身というよりも、扱いにくさというところで推薦できないと思いました。

会長：続いて、学校図書についていかがでしょう。

委員：報告書の中でもあったんですけど、考え方モンスターという決まった形のキャラクターが出てきて、考え方の思考ツールが出てくるのが効果的だなと思います。どういうふうにか考えたらいいかわからないというのが、まず子どもたちの中であって、こんな考え方も、あんな考え方もあったというのを作り出すのに、答えを教えるのではなくて、答えを出すための引き出しが入っていると使いやすいと思いました。

委員：図とか表とかを使って考えるところが算数は大事なんですけど、そういう書き方のページという設定を工夫されているのは、非常に効果的だなと思います。6年生で「デジタル・シティズンシップ」という取り扱いが算数に出てくるのはおもしろかったです。また、1年生の中で、ブロックを合わせるとか、取るという活動はものすごい重要だと思うんですけども、この学校図書の場合は、キャラクターが引っ張っていくような設定をされているんです。1年生で指導する上で、こういう設定はちょっと違うなというのが一番大きく感じました。あと、6年生の別冊は予習するためという感じがあるなと強く感じました。

会長：ここの教科書は、スタートブックといいですか、生活科ではないんですけども、幼稚園からのつなぎで、新1年生に対しての配慮を提示して、そして最後に中学校へ架け橋というそういうものを用意したという特徴があったかなと思いました。私も数図ブロックについては、違和感を感じまし

た。まとまった100個とか10個とかのまとまりもあったのですが、大変見にくかったかなと思いました。

会 長：それでは、教育出版はどうでしょうか。

委 員：報告書にもありましたけど、学んだことを使おうとか、どんな学習が始まるなど、面白いテーマ設定をされていて、いろんな考え方を出し合ったり、いろんなアプローチができるページが設定されている。そういう、いろんな思考をみんなで深め合うというのは非常に面白いなと思いました。ただ、1年生の数図ブロックで、縦に出てくるというページがあったり、あとは縦に置いてあるのと横に置いてあるのが混在しているようなところが少しあったりして、これは1年生の子どもたちが授業を受けている時に混乱するでしょうし、指導する側も教科書と黒板のイメージの違いが指導する上で難しいかなと思いました。

委 員：4年生の垂直や並行な直線の描き方は、子どもたちにとっては描けるようになるまで結構難しかったり、なかなか描けるところまでいかなかったりするんですけど、その辺りは、QRコードで何回も練習するようになっているのと、左利きと右利きの児童の物の置き方や描き方が出ていたので、多様な子どもたちが分かるように工夫されているんだなと思いました。数図ブロックの置き方は基本的な置き方があるので、指導する側も子どもたちも、いろんなやり方があって良いと思うのですが、1年生の最初の操作しながらやるという上では、ちょっとやりにくいかなと思いました。

会 長：私が思ったのは、5年生で「割合」のところですね。「基準量」と「比較量」という言葉を使っていましたが、子どもに入っていくのかなという懸念がありました。一般的に「もとにする量」とか「比べる量」とかを使っていく中で、発達段階によって、変えていってもいけるのかなと思わないこともないんですけど、それは少し違和感を持ちました。

会 長：では続いて、啓林館についていかがでしょうか。

委 員：啓林館は、「すたあと ぶっく」のところで、保育園・幼稚園の活動と算数がどのように繋がっているかはよく表されているなと思いました。あと、おはじきやブロックの操作が写真やイラストで示されていますが、非常にわかりやすく提示されているなど。それから、たし算・ひき算ですごく大事な10のまとまりを表すのに、どの出版社でも卵パックが使われているのは10個あるからだと思うんですけども、その10のまとまりが非常に意識され、子どもたちも意識しやすい構成になっていると感じました。また、高学年では、算数・数学そして実社会というような繋がり、キャリア教育の視点を踏まえながらの問題構成になっています。全体を見れば、正直、啓林館と東京書籍で非常に迷っています。算数ならば基礎的な部分の充実としては、啓林館が良くできていると思いますし、思考を深めていく

という分野においては、東京書籍は非常に充実していると感じています。

会長：まだ結論は出ないですか。

委員：総合的に見れば、啓林館が良いと思います。

会長：県内は、神戸と淡路だけです。東京書籍は。あとはすべて啓林館です。

委員：私も迷っています。基本知識を教えるんだったら、啓林館の方が良いですが、これからデジタルコンテンツがいろいろ使えるようになると、個別最適なことはたくさん載っていなくても良いし、教科書は、子どもたちが一緒にいないとできないような学習に力を入れていくのかと思います。啓林館は独特で、繰り上がりの数字設定が啓林館だけ8+3で、他は9+4。この違いは、1足したら10のまとまりになるということを知りやすくするためなのかと思います。協同的探究学習の視点で見たときに、三角形の面積の求め方は、他の教科書では、四角形から平行四辺形にして三角形だけど、啓林館だけ、四角形から三角形に行くんですね。どっちが良いのだろう。ただ、一つのマスをも1平方センチメートルと理解させていくんだったら、平行四辺形からの方が良いのかなと思ったりもしました。答えや考え方が結構書いてあるのは啓林館、数値設定とか場面設定とか考えさせるんだったら東京書籍かなと思いましたが。私は東書の方が良いと思いました。

会長：保護者の方から見たらね、そんなわかりませんよね。今のような部分はね。

委員：私は、日本文教がいいと思いました。低学年を見たんですけど、導入部分として入りやすさということを見ると、絵とか写真のバランスが良かったのと、すごく生活に基づいている内容が多かったように思いました。持って帰ってきて子どもが親しみやすいと感じたので日本文教を推薦します。

委員：見やすいし分かりやすいと思ったのは、啓林館。考えることを重視するのであれば、東京書籍。どちらも良さがあって良い。四角形の面積の部分も違いますね。どちらの入り方の方が子どもにとっていろんな考えが出やすいのかなと考えています。系統立てて分かりやすいのも大事だし、まとまりません。

会長：この報告書を教育委員さんに提出しても、何ら問題はないと思います。現場には押すところが伝わるだろうし、教師もいろいろありますからね。例えば、新任が横並び主義じゃないですけども、スムーズに指導に入っていけるのはどっちかって言ったら、啓林館の方が入りやすいかもしれませんね。ここで一つにしぼる必要は全くない。私は、啓林館を推薦したいと思います。迷っているということが良いと思います。

会長：それでは、最後に日本文教。もうすでに、推薦の意思を出していただきましたけれども、他の方は、確認されていかがでしょうか。

委員：子どもたちの興味を惹くような入り方、導入は工夫されているなというふ

うに思いました。また、6年生でも、ちょっとパズル的な部分だったりとか取り入れて、楽しんで算数に取り組むという構成になっている。ブロックを縦に並べてある場面で、引き算においては右に取るのが普通ですが、左に取っているページがあって、そこは、1年生にとっては難しいと感じました。

会 長：タイトルが「数や形で楽しく」と貫かれた、明らかに子どもたちに軸足において、算数は楽しむんだよというのを示していくような編者の思いが伝わってくる見やすい教科書です。

会 長：算数に関して他に、ご意見はございませんか。推薦の意思は他にございませんか。

会 長：次に、図画工作に入りたいと思います。

④図画工作科教科用図書の選定について

会 長：まずは開隆堂についていかがでしょうか。

委 員：開隆堂の特徴は、複数の児童が共同作業に取り組みやすい構成になっているところです。体全体を使って制作するとか、身近な題材や材料用いて制作するような取組が非常に多いと思います。それと、鑑賞教材が独立して設定されています。あと、片付け安全のコーナーが非常に良いと思いました。

会 長：今言われていたように、めあてがあって、考え、活動して、そして片付けをして振り返りを行うという流れを示していましたね。それからもう一つは、他教科と合科的でありますね。時間的な問題もありますが、それらを意識させる教科書ですね。開隆堂を見たときに、報告でもありましたが、すべての子どもたちのマスクが取られています。作品とともに、子どもたちの表情に重きを置いた教科書かなと思いました。1年生から6年生まで、キャラクターも設定されており工夫されていると思いました。

委 員：開隆堂はキャラクターがわかりやすいですね。また、ホームページには、専門でない先生も指導ができるように、わかりやすい動画があがっていたと思います。

委 員：開隆堂を推薦します。制作についてわかりやすく書いてあって、誰が見ても工作がしやすい教科書の作りになっていると感じます。

会 長：続いて日本文教についていかがでしょうか。

委 員：日本文教の特徴として、制作と鑑賞が一体となった単元構成だと感じました。互いに鑑賞しやすいように、写真を提示したり、制作のヒントも吹き出しで書かれたりしているところから、対話的な学びを非常に重視しているのが日本文教だと感じました。開隆堂も日本文教も良いなと思いますが、どちらかと言われれば、開隆堂かなと思います。一緒に制作していくとい

う観点と、相談しながら制作していくという観点に関するアプローチの仕方に若干の違いがあると思いました。

委員：開隆堂は身近な材料を使って、楽しんでものづくりをしてみようという子どもたちの意欲が高められるような工夫と、幼稚園からの流れが意識されているなどと思いました。日本文教は、作品作りの観点から見ると、よりよい作品を作るために考えながら制作していくような流れになっているなどと思いました。どちらもすごく大事なことだと思います。どちらを推薦するかと言われれば、色んな子どもたちが楽しんで取り組んでほしいことを考えると、開隆堂かなと思います。

会長：若い先生たちの目線で考えると、どちらが良いか悩みますね。

委員：若い先生たちは技術的なことも教えているが、子ども一人ひとりの個性が生かされるような、指導をされているなど感じます。指導のバリエーションをみると、開隆堂の方が、バリエーションが多い感じがします。自分に合った表現の仕方という観点からみると、開隆堂かなと思います。

会長：よろしいですか。図画工作に関して他にご意見はございませんか。推薦の意思はございませんか。

⑤家庭科教科用図書の選定について

会長：では次に、家庭です。まず、東京書籍についていかがでしょうか。

委員：消費者教育はどちらの出版社も取り上げてはいますが、東京書籍は発展ではありますが、ネットでの購入も触れられており、小学校高学年だと関係している子どもたちがたくさんいるんじゃないかと思います。そこまでふれているのはとても良いなと思います。あと、成功例と失敗例が写真でも示されていて良いと思いました。例えば、玉結びの成功例と失敗例が写真で掲載されており、子どもたちにとっては視覚的にわかりやすいなと思いました。それと、開隆堂は巻末にあると思うのですが、東京書籍は巻頭に安全面と衛生面について書かれており、やはり、家庭科という学習の特性的なものを考えると、そこは非常に配慮されていると思いました。

会長：調査員の報告にもありましたが、単元数が適切で、無理なく指導できる単元構成になっているなどという印象はもっています。

委員：開隆堂を推薦するのですが、手元の写真が分かりやすいのと、裏表紙に野菜の切り方の写真が掲載されていて、ページを開かなくても見られるようになっているのが意欲をそそられて良いと思いました。

会長：開隆堂についてはいかがでしょうか。

委員：開隆堂の良さというと、めあてや生活の見方・考え方の4つの視点が示されていて、子どもたちが課題や見通しをもって学習に臨むことができるということを意識して構成しているなど感じました。写真についても、国籍

など多様性を意識した作りであると思いました。「利き手はどちら」の掲載内容が大変有効であると感じました。

委員：どうしてその学習をするのか、どうすればうまくできるか、何に役立つのか等について考えやすい構成だと感じました。ただ、単元数が多いなと感じました。家庭科の授業時数は少ないし、専科の先生がいる学校としない学校でも違うと思いますが、単元数が多いことが気になります。

会長：私は開隆堂を推薦したいと思っています。教科書が見やすくわかりやすいし、主体的・対話的で深い学びができる設定がされています。例えば、「気づく」「見つける」から「わかる」「できる」へと向かい、そして「生かす」といった授業の流れがあり、良いと思います。それからキャリアインタビューとして、プロの声を随所に掲載しているところも良いと思います。単元数も20と多いですが、そこは指導者が軽重をつけて授業をしてほしいと思います。

委員：開隆堂の方が、衣食住が明確に分かれており、わかりやすいと思います。ソーイングが5年生の単元に入っていて、早い段階から自分の作品が作れるのがいいなと思います。そして、実際に自分の生活の中で実践していけたら良いと思いました。開隆堂は単元数が多く、内容が豊富で幅広くて良いと思いました。ただ多いがゆえに、授業が全て終わるのか心配なところではあります。

委員：私は東京書籍が良いと思います。

会長：それでは家庭科について他にご意見はないですか。推薦の意思はございませんか。

⑥特別の教科 道徳教科用図書の選定について

会長：では、続いて特別の教科道徳に進みたいと思います。まず、東京書籍についていかがでしょうか。

委員：全学年の重点項目に「安心・安全」「情報モラル」「いのち」「いじめ」「じぶん」についての5項目が取り上げられています。その中でもいじめについて、学校全体で取り組める内容となっていて、6年生では「いじめ防止対策推進法」5年生では「子どもの権利条約」4年生では「周囲の人たち」が取り上げられていて、内容が充実しているという印象を受けました。また、1年生のはじめの部分では、絵や写真を中心に学ぶような構成になっていて、文字ばかりを追うという教材ではないというあたりは、学校生活がスタートした段階の児童にとっては良いんじゃないかなと感じました。

会長：1年生ではいじめに関する内容が4つ取り上げられていますね。もともと道徳科の創設には、いじめについて考えさせるということは大きな目的であったと認識しているので、取り扱いの教材数というところは気になりま

すが、全体から見れば東京書籍は多い方ではないですが、教材が上手に配置されているという印象はありますね。また、東京書籍はたくさんの人物を取り上げていますね。2年生の藤子不二雄から始まり、池江璃花子、宮沢賢治、中村哲など、人物の生き様に学ぶという特徴がありますね。

委員：自分の心が1か0じゃないと考えるためのツールは、道德だけではなくていろんな場面で使えると感じました。スケーリングするというのが大切だと思います。また、今回道德も変わってきているのかなという印象を受けたのが、今までならその人物になりきって考えて、もし自分がその人物だったら自分はどうしたのかと考えるところが多かったように思うのですが、体験的な道徳的行為についての多様な形を出してきていると感じました。今までもあったのかもしれないけれど、ありがとうカードを作ってみようなど、実践にも届くような内容が増えたのかなという印象がありました。円形の「心のメーター」もそうですし、スケーリング、マッピングなどもそうですが、心を探るっていう内容が面白いなと感じました。また、人物の取り上げ方も、最近活躍されている方が多く、子どもたちにとっても先人のように遠い存在の人ばかりではなくて、知っているかもと感じられるような、身近な人として捉えやすいかなと感じました。

会長：続いて、教育出版についていかがでしょうか。

委員：教育出版では、「いじめ」「情報モラル」が重点項目に挙げられており、加えて、低学年では「生命尊重」、中学年では「国際理解」、高学年では「自然愛護」「相互理解」に重点が置かれていることが特徴だと感じました。また、各学年の最初は、必ず自分の生活を見つめる教材が導入として配置されているなというところと、いじめに関しては、6年生「世界人権宣言」5年生「SNS いじめ」を取り上げ、「相談窓口」も示されていました。4年生では「いじめの四層構造」が取り上げられているというところを見ると、内容が充実していると感じました。また、5年生でジェンダー平等についても取り上げられていました。

会長：「SNS いじめ」について取り上げられているところが良いと思いました。近年の子どもの現状を考えるとこれから増えていく形態のいじめであると感じているので、必要だと思いました。

委員：教育出版では、アイヌの人々について取り上げられているのが特徴的だなと思いました。情報に溢れている世の中だけど、自分が関心がない情報についてはなかなか入ってこない状況の中で、普段生活しているとなかなか関心を持ちにくい内容だからこそ教科書で取り上げて、日本の問題としてアイヌを取り上げることの大切さを感じました。

委員：なかなかアイヌのことって取り上げる機会がなく、社会科で出てきたり、人権問題のひとつとして挙がっていても関わる機会は少ないので、取り上

げているのが良いと感じました。

会 長：よろしいでしょうか。

続いて、光村図書についていかがでしょうか。

委 員：「いじめ」「情報モラル」の2項目が全学年共通の重点項目となっており、教材とコラムのセットで考える構成となっていると思います。6年生で「世界人権宣言」、5年生で「子どもの権利条約」、4年生では、まわりにいる人が取り上げられており、いじめについては充実しているなど感じました。教材のはじめに投げかけの言葉が書かれています。投げかけがあることについては賛否両論あるとは思いますが、児童の日常生活と教材を繋ごうという出版社の意図があると私は感じました。それから、調査員はどちらかと言えば良いと捉えていたのかなと思いますが、高学年は一言感想を書くようになっていて、1～4年生はシールを貼るというふうにならなっています。私は、一言でも感想を書いたら良いのではというのが正直なところです。やっぱりその時にその子どもがどんなことを考えたかが、道徳の中で非常に大切だと考えます。例えば3つの中からどれかを選ぶのとも違うと思いますし、混在していることもあるだろうし、それがその子がその時間に考えたことだと思うので、1年生2年生は短くて、学年とともに増えていくでも良いと思うんですけど、何らか思いを書くことがある方が私は良いと感じました。

会 長：たしかに4年生までシールになっていますね。

委 員：教材が身近なところでのお話が多いなど感じました。お話もあるんですけど、学校の中でのエピソードや校外学習に行っている時に考える場面など、子どもたちが実際に身近に考えやすいものが入っているなど感じました。また、他の会社もそうだと思いますが、「いじめ」と「情報モラル」については必要な教材だと思うので、そのあたりも充実していますし、コラムの内容についても工夫されていると感じました。

会 長：推薦の意思がまだ出ていないんですけども、最後までいってからにしましょうか。話し合いをしながら決めていただけたらと思います。

会 長：では、次に日本文教についていかがでしょうか。

委 員：私はさっき言った様に、何らか書くところがあった方がいいと思うので、調査員の方はその点について評価をされてなかったのかなと思いますけど、ノートがあることは日本文教の良いところとして捉えました。日本文教は、「安全な暮らし」「情報モラル」「人との関わり」を重視した構成をしていると思います。年3回のいじめ防止ユニットを構成されていて、いじめを直接扱っている教材と間接的に扱いながらいじめを許さない心を育てる教材を組み合わせるといった大きな特徴があると思いました。特に、4年生は「いじりといじめ」を扱っていて、非常に面白いと思いました。学期末に、

振り返りを文章で表現して、保護者がそれにコメントするという道徳の評価を考えていく時に、大くくりの評価というある一定の長いスパンで子どもたちの変容を捉えいく部分では活用しやすいのかなと、別冊ノートについて感じました。

委員：日本文教は、内容4項目を丁寧に冒頭の部分で整理して提示していました。今言われたように、いじめについては、大変たくさん、間接的な内容も含めて、全部で42あげているということですね。

委員：ノートがあるのが良いのか悪いかというところが、本当に分かりません。今のあかつきにはあったと思いますが。

会長：実際、今のあかつきでは、ノートを使っているのでしょうか。

委員：使っています。

委員：あかつきは、ある程度フリーに書かせるのと、それを補充するのかなようなコラム的なものがあります。

会長：1時間以内では、消化できないというのはないんですか。

委員：最後に「何か思ったことがあれば書きましょう」という時に書いて提出するので、普通のノートと同じです。

委員：道徳ノートがあつて、教科書にも書き込むページがあるのは、重なっているかと思っていましたが、その授業中にどう思ったのか、登場人物の気持ちなどは教科書に書き込んで、ノートには学んだ後だったり、学ぶ前だったり書き込むような内容となっています。

会長：ノートがない場合は、何らかの形で道徳ノートとかプリントとかを作って、配りますよね。

委員：最後に評価するので、やっぱり一つ残っている方が良いです。振り返って見直すことができますし、成長を振り返ることができます。

会長：ノートはあつても良いか、あつたほうが良いかといえば、あつたほうが良いという空気になってきていますけどね。では次行きます。光文書院は、どうでしょうか。

委員：光文書院の重点としては、「生命」「いじめ」というのが挙げられているのですが、特徴かなと思ったのが、それに加えて、低学年が「レジリエンス」、中学年で「協力」、高学年で「共生」を取り上げています。特に「レジリエンス」については、全学年にコラムがあるんですけども、掲載されているのは、他と違って面白いと思いました。光文は保健体育の教科書を出している会社というのものもあるのかもしれませんが、LGBTに関する内容も取り上げられています。教材が40あり、兵庫県の実態としては「心シリーズ」をいくつか加えると、この教材でどこを減らすかというのを考えないといけないのが一点。発問例が示されていますが、非常に大きくインパクトが強く書かれているので珍しいと感じました。

- 会長：光文は内容4項目をこの同心円に書いていて、この教科書ではこんなことを学ぶと最初に示して、そして問いかけて、考えさせて、まとめて、広げていくという学習の流れをきちんと押さえているなという印象ですね。それから人物から学ぶという点においてもたくさん出して、良い点かなと思います。
- 会長：では、とりあえず最後までいきますね。学研についていかがでしょうか。
- 委員：学研は「いのち」というのを最重点テーマとして取り上げていて、例えば生命と生命尊重とかいろんなものを組み合わせながら、「いのちのユニット」で構成されているのが特徴かなと思います。また、いじめ防止に関する教材も年間通して、学べるような配置をしているということが挙げられます。環境とか、防災とか、SDGs等、よりよく生きることを重点テーマにも上げていて、キャリア教育に関する内容としても充実しているなと思いました。ただ、1年生の「二わのことり」という教材がありますけど、書かれている本文が二段に分かれていて、吹き出しが挿絵の一部にかかっています。どこを見たら良いか分からないので、1年生にしては難しいのではないかなと思います。
- 委員：二段のところなどはイラストが多く、あちらこちらにあって見にくいですね。
- 会長：学研はいじめについて、かなりたくさん扱っています。命を中心に伝えるってことは、いじめと直結する問題ですので。どうでしょう、そうしたら、6つの中から推薦の意思をお願いしたいんですけども。
- 委員：私が推薦するのは、東京書籍なんですけど、構成のバランスとして見やすいのと考えてみようみたいな問いかけがあって分かりやすいのかなと思いました。
- 会長：道徳は、本当に難しいです。東京書籍か光村かどっちかかなというふうに思ってはきたので、見やすさからいったら間違いなく東京書籍だと思います。はっきりした文字とはっきりした構成で、本当わかりやすいです。
- 会長：ノートのこともありますので。
- 委員：ノートの上の四角は、絵を描くのでしょうか。絵を描く時間があるのか。絵が苦手な人は嫌かな。
- 委員：私は東京書籍が良いと思っています。文字が見やすく、イラストも。やはり自分のこととして捉えていくような場面も設定されていくことが、道徳の実践力を養うためには良いと思います。いじめのことをストレートに見ていくことも大切ですが、その前にクラスの中で、安心感とか、居場所とか、繋がりとかを感じられるようなものを大切にしていける必要があるなと思いました。迷っているのですが、私は東京書籍です。
- 委員：私は東京書籍か、日本文教のどちらかと思っています。日本文教は、ノー

トがあるというだけでなく、比較的定番教材が多いという特徴があります。それが良いか悪いかは別の問題がありますが、ある意味定番教材とバランスという面と、感じたことをしっかり残すというところ。それを、東京書籍はデジタルの中にあるワークシートで残そうとしている。私は、日本文教が良いと思います。

会 長：あとは教育委員会で決定しますからね。多様な意見が出ましたので良いと思います。

委 員：「いのち」と「いじめ」の両方がバランスよく入っているのと、見やすいということで、東京書籍にします。

会 長：「安心・安全」とか、「いじめ」について、「情報モラル」「いのち」について、「じぶん」について、本当にきちんと整理されて、取り上げられてますよね。皆さんの意見を伺って、最終的に私も東京書籍を推薦したいと思います。

会 長：それでは、道徳に関して他にご意見はございませんか。推薦の意思は他にございませんか。

会 長：ありがとうございます。他に全体を通して、何かご意見がありましたらお願いします。

委 員：今回選定委員をさせていただいて感じたこととして、調査員の中に特別支援が専門の先生はいらっしゃったのかなというところが気になりました。全ての教科でということは難しいとは思いますが、教科書の情報量が非常に多くなっていると感じる中で、特別支援の視点から教科書を見た時には、また違った意見を頂けるのではないかと感じました。教科書の後ろにはユニバーサルデザインについての記載はあったけれども、字や色の読みやすさは書かれていましたが、配置とかはどうなのでしょう。理科とか社会は特に情報量が多く、キャラクターも多く感じます。授業をする際には、黒板の周辺をシンプルに整えているのに、教科書の情報は過多であるというギャップは気になりました。これはあくまで私の感覚なので、そういった視点をいただける方を何らかの形で入れていただくことも、今後検討いただいてもよいのではないかと思います。今回は、そういった方はおられましたか。

事務局：調査員として、生活科におられました。

委 員：全ての教科でということは難しいのはよくわかるので、そういった視点の重要性についても考えていただければと思います。

(3) 加古川採択地区選定委員会報告書の作成について

会 長：最初に事務局から説明がありましてとおり、事務局の方で報告書の作成をよろしくお願いいたします。ご協議ありがとうございました。以上で協議

事項終了となります。

4 連絡事項

議事録及び資料の公表について

5 閉会